



くば小児科 クリニック

院内報 2008年6月・7月号

● おしらせ

- ◎ これまで予約用の電話番号としていた「32-1199」を廃止して「32-1198」に統一しました。インターネット予約（24時間受付）もご利用下さい。
- ◎ 子育て支援策により、4月からこれまでの3歳未満に加えて就学前の子どもの外来自己負担額割合が3割から2割になりました。
- ◎ 禁煙治療の薬として、これまでのニコチン置換療法に加えて5月より新しい経口禁煙補助薬「チャンピックス」が使えるようになりました。

● 院内版感染症情報 ～2008年26週（6/23～6/29）

2008年	第10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26週
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶連菌咽頭炎	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
感染性胃腸炎	5	7	9	4	4	8	5	6	5	2	3	4	6	2	4	1	4
水痘	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	3
手足口病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伝染性紅斑	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
突発性発疹	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
風疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

冬場から流行していたウイルス性胃腸炎（ノロ／ロタウイルス）が、春になってもまだ残っています。全体に軽症のことが多く、吐き気があるのは最初の一晚です。咳が多くなるタイプの一般的な風邪も新学期からみられていま

す。その他に目立った流行はありませんが、6月から7月にかけて、手足口病やヘルパンギーナ、その他の夏かぜなどが増えてくる季節です。6月下旬から保育園などでヘルパンギーナが流行り始めているようです。夏カゼも腸の中で感染・増殖することが多いので、下痢や嘔吐を伴いタイプが多いのです。

大地震の陰に隠れてしまいましたが、中国でエンテロウイルス71型による手足口病で死者が多発しているとの報道がありました。この型は1997年～98年に東南アジアや日本国内でも流行し、重症化したり死亡することもあると注意を呼びかけたのと同じタイプです。特に神経質になる必要はありませんが、症状・経過に注意するようにして下さい。

国内で麻疹（はしか）が全数報告となり、1月からの累計で8千名を超えました。県内でも弘前周辺などを中心にみられており、八戸にも飛び火しているようで、麻疹ゼロにはまだほど遠いのが現状です。各年齢での予防接種をお忘れなく（1歳、就学前、中1、高3）。

● ぜんそく教室（全3回）開催のお知らせ

第1回「喘息の基礎知識」

日時 7月19日（土）15:00～16:00 （14:30～ビデオ）

内容 気管支喘息とは？ 喘息の症状 治療の目標 発作のときの対処
治療につかう薬の知識 発作のないときの管理

ご案内が大変遅くなりました。今年もぜんそく教室を開催します。

喘息の治療のためには、患者さんやご家族が病気のことを知り、薬のことを知り、対処法を理解した上で長期にわたって取り組んでいくことが必要になります。内容は昨年までとほぼ同じですので、参加できなかった回がある方はその回だけ参加していただいても結構です。

第2回「ぜんそく児の日常生活」は8月23日（土）、第3回「喘息のセルフケア」は9月20日（土）の予定です。

● ヒブ（Hib）ワクチンとは？

ヒブ（Hib）ワクチンが秋から接種できるようになります。詳しいことは未定ですが、今回はワクチンの基本的な情報についてお伝えします。

◎ ヒブ (Hib) とは？

ヘモフィルス属インフルエンザ桿菌b型 (Haemophilus Influenzae Type b) という細菌の略称です。インフルエンザのウイルスとは関係ありません。エイズのHIV (エイチ・アイ・ヴィー) ウイルスとも関係ありません。

強い病原菌の一つで、肺炎や喉頭蓋炎、髄膜炎などを引き起こします。小児の細菌性髄膜炎の半分以上がヒブ (Hib) によるもので、国内で毎年600人の子どもがヒブ (Hib)による髄膜炎にかかり、そのうち5%が死亡し、約20%に後遺症を残しているのが現実です。

◎ ヒブ (Hib) ワクチンとは？

世界100カ国以上で10年も前から導入され、ヒブによる深刻な病気は100分の1程度に激減しました。WHOでも乳児への定期接種を推奨しています。

◎ 接種の対象となる年齢は？ 5歳以下の乳幼児です。

◎ 接種方法と回数は？

三種混合と同じ、初年度3回、1年後に追加接種の計4回です。接種回数が多いので、三種混合と同時に接種するのが現実的です。同時接種は特に副反応を増加させるわけではなく、世界中で実施されている方法です。接種開始時の月齢・年齢によって、回数を減らしたり間隔を調整することになりますが、日本でのやり方はまだ決まってません。

◎ 定期接種ですか任意接種ですか？

残念ながら任意接種 (自費) になります。諸外国と同様に、無料で接種できる定期接種に組み込むよう運動しているところですが、日本はワクチンに関する行政が極端に遅れているので、いつ実現するか見通しは立っていません。

◎ 接種料金は？ ワクチンの納入価が未定のため、まだお伝えできません。

● 6月～7月の診療日、急病診療所、各種教室、相談の予定

6月～7月は臨時の休診はありません。急病診療所当番は7月6日(日) 昼、20日(日) 昼で、次回の赤ちゃん教室は7月26日(土) です。ぜんそく教室の第1回は7月19日(土)、育児・子どもの心相談、禁煙外来 (保険診療) は随時受け付けております。メール予約システムをご利用下さい。

5月中は外壁工事のため足場が組まれていてご迷惑をおかけしました。

発行 2008年7月2日 通巻第134号 ☆ 当院は「敷地内禁煙」です ☆
編集・発行責任者 久芳 康朗 〒031-0823 八戸市湊高台1丁目12-26
TEL 0178-32-1198 FAX 0178-32-1197 <http://www.kuba.gr.jp/>